

# 平成 27 年度全国学力・学習状況調査について

東大阪市立英田北小学校  
校長 田畑 真人

さる 4 月 21 日実施の「全国学力・学習状況調査（第 6 学年対象）」の結果送付を受け、下記のとおり、考察等を行いましたので、個人票とあわせてお届けいたします。

なお、この調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎず、いろいろな面から総合的に子どもの学力をみていく必要があることをご理解願うとともに、「社会の一員として生活していく上で必要な力（確かな学力）」の育成・定着に向け、キャリアシラバスに基づき進めていく本校教育活動に対し、今後ともご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

## 記

### I 調査の概要

#### (1) 学力調査

- ①国語A、算数A → 主として「知識」に関する問題
- ②国語B、算数B → 主として「活用」に関する問題
- ③理科 → 主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題

#### (2) 質問紙調査

児童を対象に「学習意欲」「学習方法」「学習環境」「生活」の諸側面等に関する質問

### II 考察

#### (1) 学力調査

##### ① 国語

##### < A問題 >

「漢字を読む」「漢字を書く」が全体的にできていた。「書くこと」領域においては、「説明の文章の書き方の工夫」に関する 1 問だけであったが、これまでより向上がうかがえた。「話すこと・聞くこと」領域や「読むこと」領域に課題のある児童が多い。

##### < B問題 >

今年度調査問題は「書くこと」領域と「読むこと」領域の 2 領域に関するものであった。これまでも B 問題においてこの 2 領域に課題があったのだが、今回、一部問題（「目的や意図に応じ、記事に見出しを付ける」「登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉える」）を除き、どちらも明らかな向上がみられた。

##### ② 算数

##### < A問題 >

「数と計算」領域と「量と測定」領域は良好であったが、「図形」領域と「数量関係」

領域が下降。トータル的には昨年度向上分をほぼ維持。これまでから「技能」より「知識・理解」の方が低い傾向にあったが、今回その差はさらに広がった。

##### < B問題 >

前年度飛躍した「数と計算」領域に今年度さらに向上が見られた一方で、残りの「量と測定」領域、「図形」領域、「数量関係」領域が下降。トータル的には昨年度向上分をほぼ維持。記述式問題に対する対応力の向上もうかがえた。

##### ③ 理科

「知識」より「活用」に関する問題の方を得意とする傾向が見られる。「物質」領域と「生命」領域、並びに短答式・記述式問題に関して不振が目立ったことから、理科学用語や器具の名称等も含む知識の獲得力、論理的・科学的な思考力に大きな課題がある。

#### (2) 質問紙調査

- ・授業関係では、国語、算数とも「取組姿勢・意欲」が依然下降傾向。理科においても不振がうかがえる。授業での活動内容については国語において肯定的回答が下降気味。
- ・「学校の授業時間以外に普段（月～金）1 日当たり勉強する時間が 30 分より少ない」という児童の割合が増加傾向。
- ・「家で宿題をやっている」児童の割合は高い水準を維持しているものの、他の家庭学習に関する質問からは厳しい状況がうかがえる。
- ・朝食摂取が下降。また、児童のほぼ 9 割が「新聞をほとんど読まない・全く読まない」という状況にある。
- ・起床時刻、達成感や成就感、行動規範、友達関係、将来の夢などに関する質問に対しては、引き続き良好な回答が多数を占めていた。

### III 学校の取組み

「確かな学力（社会の一員として生活するうえで必要な能力）」の育成・向上に向け、学校として以下のことに重点をおいて取り組みを進めます。

#### ① 学習意欲の向上

- ・本校キャリアシラバス（キャリア教育の視点）に基づいた教育活動を推進。集団内での様々な機会を活用し、児童の社会性や主体的態度の育成を図る。
- ・「朝学習」の一層の充実を進め、他の機会も併せて、国語、算数の基礎・基本技能等の定着と、その達成感に基づく自信の創出により学習意欲の向上を図る。

#### ② 学びのスタンダード（判断力・思考力・表現力の育成につながる学習形態等）及び授業スタンダード（指導効果を高めるための共通した学習環境、学習規律、指導技術等）の再構築

#### ③ 教員の指導力及び学校力（高い指導力を発揮できる学校体制）の向上。

#### ④ 家庭学習習慣や学習規律の確保等に向けた家庭連携の工夫。